

経営学部キャリアガイダンス実施教員に関するアンケート結果のとりまとめ

経営学部キャリア委員 安田 彰

1. キャリアデザインガイド1の内容と感想について

- (1) 全体の流れが良く紹介され、自己参加型(グループ学習)もあって良い。
- (2) 今年度から始まった「インタビュー実践」の教科書との親和性も高い。
- (3) 毎年内容が更新され、完成度も高い。

等の高い評価を得た。

とくに今年度から本学部で始まった、オリエンテーションゼミにおける「インタビュー実践」との関連性や有機的活用への評価は特筆すべきであろう。

2. キャリアデザインガイド1の活用状況について

- (1) オリゼミ、ゼミナール I 等の授業における活用
- (2) キャリア論(「キャリアガイダンス」「人生と進路選択」等)の授業資料としての活用
- (3) 他ゼミでのキャリアガイダンス時の活用

等が上げられている。

ただ「授業外でいかに学生たちに活用してもらうかが課題」との指摘もある。

現にガイダンスを受けた学生たちの声としては、自分に対する理解が進んだとするものが、5段階評価で「5:38%、4:23%、3:23%」と計84%に上っている。あわせて「今後の目標イメージが出来た」とするものも「5:8%、4:42%、3:35%」であり、85%が肯定的な評価している。

外部ガイダンスをきっかけに、さらに自主的にガイドを活用する機運やきっかけをどう作るかが今後の課題であろう。

3. 本学のキャリア教育に関する理解度について

全員それなりの理解(5段階評価の4)は出来ているようだ。

4. 本学のキャリア教育に関する今後の具体的課題について

- (1) 難しい質問ではあるが、まずは「キャリアデザインガイド」の活用状況の把握と活用向上策の検討という身近なところから。
- (2) 初年度のキャリア教育導入後のフォローアップ体制強化(特に2年次)
- (3) キャリア教育本格化(3年次後期)前のキャリアセンターとの関わりの深化

等の声が上がっている。

新たな手法の導入よりも、既存のさまざまな取り組みの成果と反省・検証、それに基づく諸施策の有効化向上があげられている。同時に、キャリアセンターをはじめとする大学側の教育や啓蒙のしくみを、いかに早い段階から学生側の意識向上や具体的行動に結び付けていくかが課題だといえよう。

5. 「教職員一体」でキャリア教育に取り組むに際し、「教員」と「職員」の役割分担に関するアイデアや具体的方法について

- (1) 現在の役割分担に関する教員側へのさらなる理解と啓蒙活動(現状問題点も含め)
- (2) 一般論として、教員のキャリア形成への実体験としての関わりの薄さの指摘
- (3) 各年次におけるゼミナール授業にキャリア教育を取り入れる試み

等の指摘があった。

いずれも大事な指摘で、教員側に対する啓蒙や研修が欠かせないと思われる。

平成 23 年度

6. キャリガイダンスに参加しての印象や感想について

- (1) 普段の授業以上に学生が熱心で、積極的かつ楽しそうであった。
- (2) 「クラスマネジメントの力」を改めて考えさせられた。

等の感想があった。

学生たちへのアンケートでも、自分の卒業後の進路については、すでに 77%がそれなりに考えており(うち 75%が企業就職希望)、かつ上述のとおりガイダンスを通じて、一定程度の自己理解や目標イメージの確立に役立っているので、ガイダンスの機会をふやし、さらに授業の中に取り込んで、大学前期から定期的なキャリア教育を重ねる必要性がありそうだ。

それによってまだ進路を考えていない 23%の学生の数を減らしたり、4 年次になっても卒業後の進路決定(就職・進学等)をせず、「自己実現」の名のもとにモラトリアムを決め込む学生の数を減らしたりしていきたい。

以上